

実社会や日常生活との関わりを見いだせる課題設定の工夫

## 日常生活や社会の事象を取り入れた課題学習

数学的活動としてとらえる問題発見・解決の過程は、主として日常生活や社会の事象などに関わる過程と、数学の事象に関わる過程の2つと考えることができます。しかし、実際の高校数学の授業においては、教科書を中心とした数学の事象に関わる過程で授業を進めることが多く、日常生活や社会の事象などに関わる数学の有用性の認識を高めるような題材が扱われることはあまり多くありません。また、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」及び「数学Ⅲ」には課題学習が設定されており、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説数学編理数編では「内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識させ、学習意欲を含めた数学的に考える資質・能力を高めるようにする」と規定されています。そこで、単元の終末において、日常生活や社会の事象を取り入れた発展的な課題を提示することにより、生徒が単元で学んだことを活用し、主体的に学習に取り組むことができるようにするとともに、数学のよさを認識させることを目指した授業実践です。

**ポイント！**

### 日常生活や社会の事象を取り入れた課題の提示

サッカーの解説者の立場で、以下の課題に取り組んでみよう！

1994年アメリカワールドカップ・アジア地区最終予選は、1次予選A～F組を1位通過した6か国が総当たりのリーグ戦で対戦し、上位2か国がワールドカップの出場権を得ることになっていた。第4戦終了時点で日本はグループ1位となり本戦出場が有力視されていた。最終戦となる第5戦を残した第4戦終了時点の順位は以下のとおりである。

順位表（第4戦終了時点）

順位	チーム	勝ち点	勝	分	負	得失差	総得点
1	日本	5	2	1	1	+3	5
2	サウジアラビア	5	1	3	0	+1	4
3	韓国	4	1	2	1	+2	6
4	イラク	4	1	2	1	0	7
5	イラン	4	2	0	2	-2	5
6	朝鮮民主主義人民共和国	2	1	0	3	-4	5

日本がワールドカップ出場権を得るための最低限の条件を考えよう！

### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント

- ・日常生活や社会の事象を取り入れた課題を提示することで、課題への興味・関心を高め、主体的に課題に取り組むことができます。
- ・課題を解決し、クラス全体で共有することで、単元の学習を振り返り、深い学びにつなげることができます。